

[異常時通報連絡の公表文 (様式 1 - 1)]

伊方 2 号機アスファルト固化装置の自動停止について(第 2 報)

19. 5 . 30
原子力安全対策推進監
(内線2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有 [評価レベル -]	無
県の公表区分		A	B
外部への放射能の放出・漏えい		有 [漏えい量 -]	無
異常の概要	発生日時	19年 5月17日18時35分	
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備	
		管理区域内 ・ 管理区域外	
種 類	・設備の故障、異常 ・地震、人身事故、その他		

[異常の内容]

5月17日(木)19時32分、四国電力(株)から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 5月17日(木)18時35分頃、通常運転中の伊方2号機において、アスファルト固化装置の異常を示す警報が発信し自動停止した。
- 今後、詳細調査を実施する。
- 本事象によるプラント運転への影響及び環境への放射能の影響はない。

その後、四国電力(株)から、その後の状況等について、次のとおり連絡がありました。

発信した警報は「混和機軸封油圧力低」である。
現場を確認した結果、アスファルト固化装置軸封油循環ポンプBから異音がしたため、当該ポンプを手動停止し、予備機である軸封油循環ポンプAを起動した。
ポンプBについては、分解点検中である。
ストレーナに粘着質の不純物が付着していたことを確認した。
[以上第1報でお知らせ済み]

[復旧状況等]

5月30日(水)10時50分、四国電力(株)から、復旧状況等について、次のとおり第2報がありました。

- 軸封油循環ポンプB廻りを点検した結果、ポンプ入口のストレーナ内部に粘着性の物質が認められたことから、これによってポンプ入口に油が供給されず油圧が低下したものと推定された。
- 当該ストレーナを清掃手入れを行うとともに、軸封油系統の点検・清掃を行い、油を交換した後、当該ポンプ及びアスファルト固化装置の試運転を行い、本日10時00分、通常状態に復旧した。
- 今後、引き続き原因の調査を実施するとともに、調査結果に基づき必要な措置を実施する。
- 本事象によるプラント運転への影響及び環境への放射能の影響はない。

県としては、八幡浜保健所の職員を伊方発電所に派遣し、復旧状況等を確認しております。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力 %)	・ 停止中
	2号機	運転中(出力101%)	・ 停止中
	3号機	運転中(出力103%)	・ 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	・ 異常値
周辺環境放射線の状況		通常値	・ 異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（経済産業省原子力安全・保安院等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 (放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等) 社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 (大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等) その他特に重要と認められる事態
B	管理区域内の設備の異常 発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき その他重要と認められる事態
C	区分A, B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

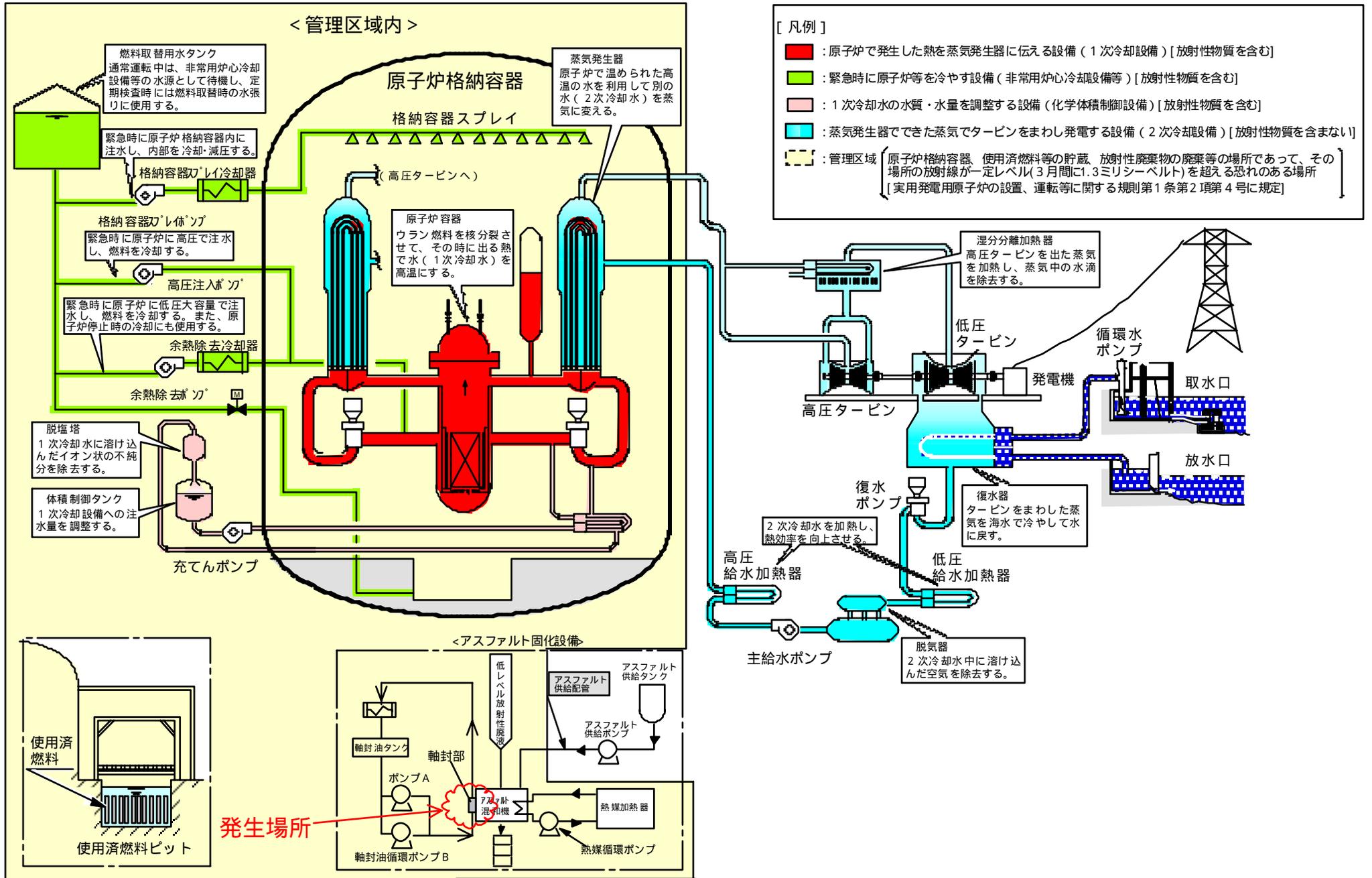
その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生 の場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

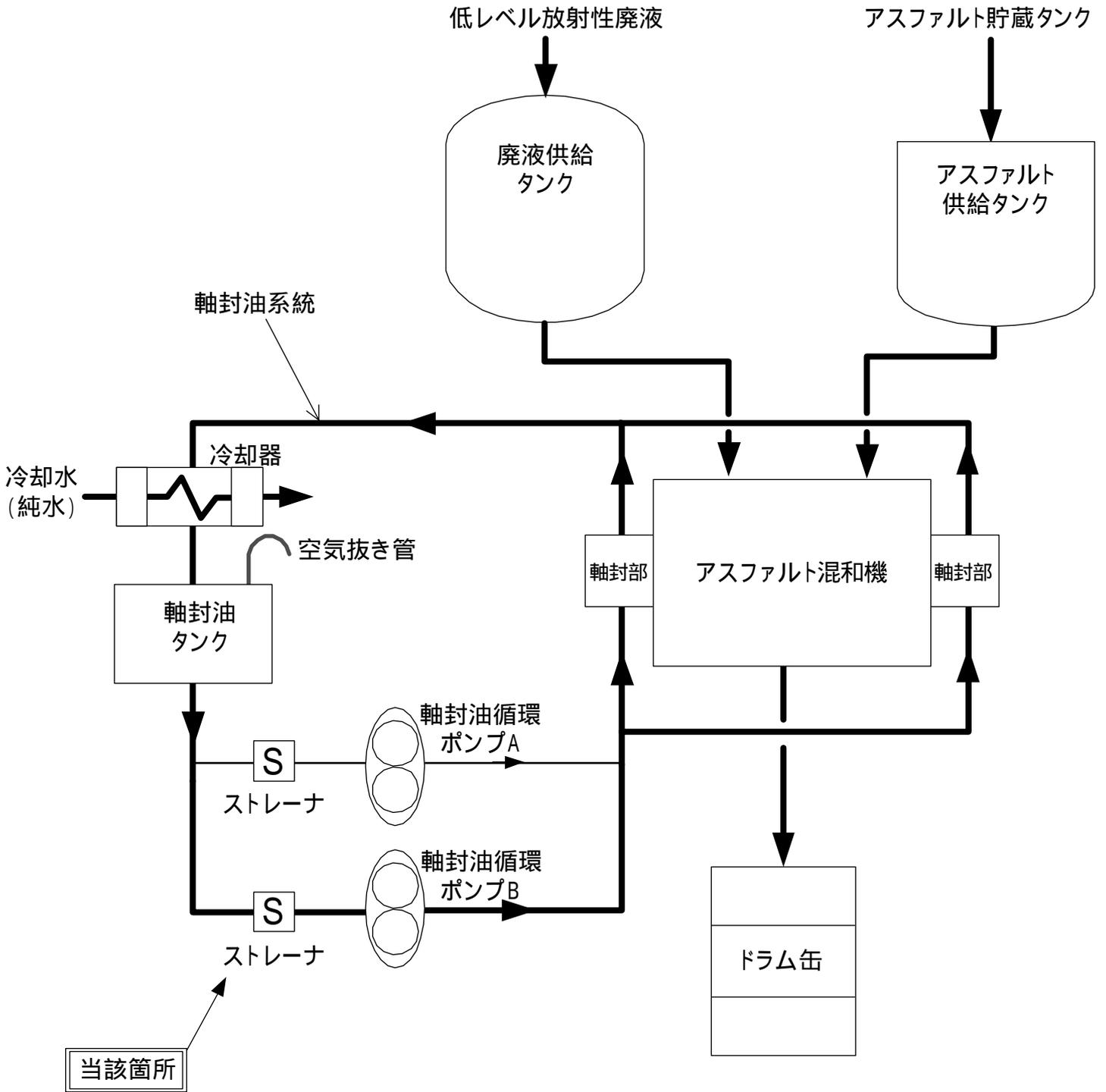
伊方発電所情報
(お知らせ、第2報)

発信年月日	平成19年 5月30日(水) 10時50分	
発信者	伊方発電所 岡崎	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・2号機(566MW)・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 出力571MWにて(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 第一回定期検査中
発生状況 概要	<p style="text-align: center;">設備トラブル ・ 人身事故 ・ 地震 ・ その他</p>	
	<p>1. 発生日時： 5月17日18時35分</p> <p>2. 場 所：伊方2号機 原子炉補助建家内(管理区域内)</p> <p>3. 状 況：</p> <p style="text-align: center;">伊方発電所2号機は、通常運転中のところ、アスファルト固化装置の異常を示す警報が発信し、自動停止しました。</p> <p style="text-align: right;">[第1報にてお知らせ済み]</p> <p>装置の自動停止は、軸封油循環ポンプBの吐出油圧低下によるものであったため、当該ポンプ廻りを点検した結果、ポンプ入口のストレーナ内部に粘着性の物質が認められたことから、これによってポンプ入口に油が供給されず油圧が低下したものと推定されました。</p> <p>このため、当該ストレーナの清掃手入れを行うとともに、軸封油システムの点検・清掃を行い、油を交換した後、当該ポンプおよびアスファルト固化装置の試運転を行い、本日10時00分、通常状態に復旧しました。</p> <p>今後、引き続き原因の調査を実施するとともに、調査結果に基づき必要な措置を実施いたします。</p> <p>なお、本事象によるプラント運転への影響および環境への放射能の影響はありません。</p>	
運転状況	<p>1号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>2号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>3号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p>	
備考		

伊方発電所 基本系統図



アスファルト固化装置概略系統図



アスファルト固化装置軸封油循環ポンプB入口ストレーナ



清掃前



清掃後

用語の解説

アスファルト固化装置

プラント廃液や洗濯排水等の低レベル放射性廃液を、混和機でアスファルトと混ぜて固化する装置。

軸封油は、アスファルト固化装置の回転軸からアスファルトが漏れいするのを防ぐため、軸封部に油を循環させている。

ストレーナ

油の不純物を取り除くためのろ過器。

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成19年5月17日(木)

(単位:ナガイ/時)

測定局	時刻	測定値(シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		18:20	18:30	18:40	18:50	19:00	降雨時	降雨時外
愛媛県	モニタリングステーション(九町越)	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	4.1	1.8
	九町モニタリングステーション	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3	4.6	2.4
	湊浦モニタリングステーション	1.5	1.5	1.4	1.5	1.5	3.5	1.6
	伊方越モニタリングステーション	2.0	1.9	1.9	1.9	2.0	4.1	2.1
	川永田モニタリングステーション	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	4.6	2.6
	豊之浦モニタリングステーション	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	3.9	1.3
	加周モニタリングステーション	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	4.3	2.3
	大成モニタリングステーション	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	3.6	2.3
四国電力(株)	モニタリングステーション	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	3.9	1.6
	モニタリングステーションNo.1	1.4	1.4	1.4	1.5	1.5	4.1	1.6
	モニタリングステーションNo.2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	4.1	1.5
	モニタリングステーションNo.3	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	4.2	1.4
	モニタリングステーションNo.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	4.1	1.6

降雨の状況:有・無

伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成15、16年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナガイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

